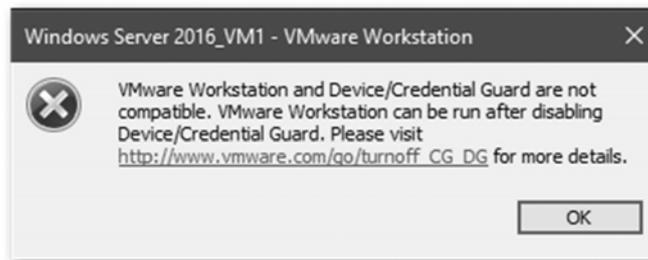


Credential Guard / VMWare Workstation エラーの修正について

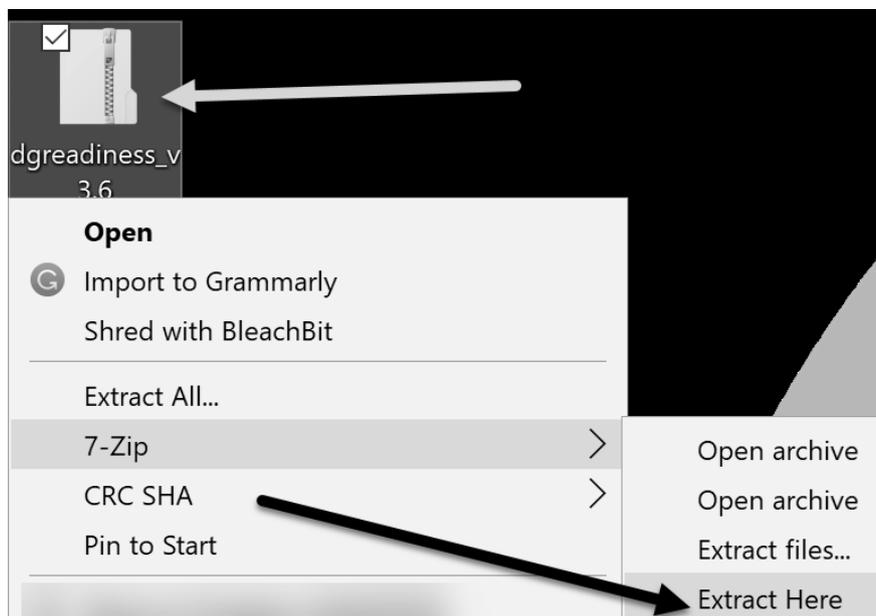
Credential Guard が有効になっている状態でVMWare Workstationを実行すると、下に示すようなエラーが表示されることがあります。



Credential Guard の削除

VMWareを実行できるようにするには、はじめに“Device Guard and Credential Guard hardware readiness tool”を、こちらのサイトからダウンロードしてください。 <http://dfir.to/CREDGUARD>

1) ダウンロードしたZIPファイルをデスクトップに移動させ、ZIPファイルを展開します。



2) 次に、管理者としてPowerShell を起動してください。



3) PowerShell のウィンドウが表示されたら、先ほどZIPファイルを展開した場所に作業ディレクトリを移動させてください。

注：例示にあるバージョンは3.6となっていますが、マイクロソフトが同ツールのバージョンアップを実施すると、指定する作業ディレクトリの数字の部分が若干変化する可能性があります。

入力するコマンドは太字で示します：

```
PS C:\WINDOWS\system32> cd ~\Desktop\dgreadiness_v3.6\
```

4) 以下のコマンドを実行してください 同様に、入力するコマンドは太字で示しています：

```
PS C:\Users\User\Desktop\dgreadiness_v3.6> Set-ExecutionPolicy Unrestricted
```

```
PS C:\Users\User\Desktop\dgreadiness_v3.6> DG_Readiness.ps1 -Disable
```

これらのコマンドを実行すると、Credential Guardが無効になります。システムに対する変更内容を有効にするには、再起動が必要になる場合があります。

いずれにしても、Credential Guardが無効であれば、VMWareは正常に動作するでしょう。

Credential Guard の修復

コースが終了し Credential Guard を再び有効にするには、手順2と3を実行したあとで、以下のコマンドを実行してください。同様に、入力するコマンドは太字で示しています：

```
PS C:\Users\User\Desktop\dgreadiness_v3.6> DG_Readiness.ps1  
-Enable -CG
```

無効化した時と同様に、Credential Guard を有効化したら、再起動が必要になります。